

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表:令和 6年 2月 20日

事業所名 こぱんはうすくら 浜松原島教室

保護者等数(児童数) 15 回収数 13 割合 86.6%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11		1	1	人数に対して狭い。	活動に応じて広い部屋に移動しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	12	1				規定通りの配置をしています。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	4	2		7	送迎の際の駐車スペースが狭い。	事故につながらない様、安全に配慮していきます。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	11	2			よく考えてくださっていると思います。	職員間で子どもの様子を毎日振り返り、半年に一回個別のカンファレンスを行っています。日々子どもたちの課題を模索した上で、計画を作成しています。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	12	1			季節ものの製作やイベントなど子どもが楽しめるように工夫されていると思います。	今度も季節ものの製作、その時々に必要なプログラムを設定していきます。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	1	3	5	活動したという話をきいたことがない。	機械を設けれていないのが現状です。今後、検討していきます。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10	1		2	児発から放デイに移動するにあたって新たな説明がしっかりととはなかった。	一通りの説明はさせていただいています。不安な点がなくなるよう、寄り丁寧に説明していきます。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	12	1			リズムや送迎時に活動内容や様子を教えてもらえて助かります。	今後も連絡帳や送迎時、様子や状況の共通理解に努めていきます。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13				いつも親身になってくださっていることに大変感謝していきます。	保護者の方から相談があった際には迅速に回答させていただきます。また事業所内で気になる様子がみられる際には、報告、助言をしています。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	10	2	1		年に1度くらいしか他の保護者と会う機会がない。連携が支援されているとは言えない。	月に2回保護者参加のイベントを組んでいます。2月にはゆっくりと懇談する機会を設けています。より連携が取りやすくなる様、支援させて
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	1		2		苦情があった際には迅速に事実確認をし、保護者への説明・職員間での共有をしています。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	12	1				連絡帳や送迎時に情報のやりとりをする機会を設けています。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	12	1				月に1回活動の報告やお知らせ等を記載したお便りを出しています。
非常時 等の 対応	14 個人情報に十分注意しているか	12	1				書類に関しては鍵付きの書庫で保管しています。破棄する書類に関してはシュレッターをかけて
	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	12	1				マニュアルの策定はされているが、十分に保護者の方への周知はできていないため、訓練や懇談の機会に周知していく。
満足 度	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	12			1		年に4回様々な災害を想定して訓練を行っています。
	17 子どもは通所を楽しみにしているか	11	1	1		早く自宅に帰りたいという理由で嫌がることが増えた。いつも楽しみに通っています。	嫌がっていることを把握した上での支援をしていきます。活動内容も子どもにも興味を持ってもらえるように工夫します。
	18 事業所の支援に満足しているか	12	1				より一層満足していただくために、活動内容やコミュニケーションの取り方を工夫していきます。

192 18 6 18

82%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 20日

事業所名 こぱんはうすくら 浜松原島教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	3	活動に応じて部屋の移動やパーテーションで仕切っている。	引き続き活動に応じて部屋の移動等をし、ストレスの少ない空間で過ごせるように配慮していきます。
	2 職員の配置数は適切である	4	1	休みの職員がいる際にはヘルプを要請している。児童の子どもがいない時間には児童の職員が必要に応じて手伝っている。	ヘルプの職員がいても安心して通所できる環境づくりをしていきます。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	対象となる児童はいない。基本的に段差は少ない造りになっている。また手洗い場は台を設置している。	対象の児童が入所するタイミングで適宜改善をしていく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1	終礼や朝礼にて振り返り、改善点について話合っている。	児童に関わる全職員との情報共有をし、支援の方向性を統一していく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	保護者の方の意見を把握した上で不安などが解消されるよう、送迎時の会話や連絡帳でのやり取りを大切にしている。	アンケートの集計結果をいつでも見られるようにファイリングしている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	3	毎年、評価結果をホームページで公開している	公開していることを知らない職員もいるため、周知していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	本部や役所の方による評価を受け、指摘された点は改善している。	評価を受けていることを知らない職員が多いため、受けていることを周知し、改善案についても具体的に伝えていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	外部で行われる研修に参加している。	研修に参加した職員は、他職員に共有して支援に繋げてく。
適切	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	事前に相談事業所からのサービス利用計画書や保護者の意向を聞いた上で子どもの様子を詳しく観察し、計画を作成している。	より個々に合ったアセスメントを立てれるようにしていく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	4	類似した方法でアセスメントを行っている。	今後、標準されたアセスメントシートの使用を検討していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	ミーティングを利用して月ごとのプログラムをチームで立案している。	今後も引き続きミーティングの中でプログラムの立案を行っていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	毎月入れていくものは決めたうえで、新しい活動も取り入れている。	今後も引き続き定着させたいプログラムと新しい物を取り入れながらプログラムを組み立てていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1	全体においては月毎の目標を設定している。	個々の目標を子ども達とも少しずつ共有して支援を行っていく。必要に応じて課題の設定をしていく。

主な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	主に集団活動の中での計画となっている。毎日プリントなどで個別の支援を行っている。	今後、必要に応じて個別活動を計画にも組み込み実施していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	毎朝のミーティングで活動内容等を確認している	今後も継続して行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	毎日、場面ごとに振り返りを行っている。成長や子どものこだわり、子ども同士の相性など共有をしている。	今後も継続して行っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	16にて話し合った内容は記録を取っている。また細かい内容は個別記録に残すようにしている。	今後も漏れがないよう継続して行っていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	定期的にモニタリングは行われており、それを基に半年ごと計画の見直しをしている。	モニタリング直後に全職員に内容の周知ができるようにしていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	1	基本的にはガイドラインののっとなっているが、子ども帯の状況に見て支援を行っている。	全職員がガイドラインを把握した上で支援を行うようにしていく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	施設長や子どもの状況に精通した職員が参画している。	どの職員でも対応できるようにしていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	下校予定表をもらい確認したり、変更があった際に連絡をもらっている。また送迎時に必要であれば双方の様子を伝えている。	今後も学校とは密に関わりを持ち、それぞれの支援に繋げていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2	現在、対象児童は受け入れていない。	受け入れることになった際に、連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	かけはしシートを活用して情報共有をしている。	全児童に対して行えてはいないので、情報共有できる機会を増やしていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1	小学生までを対象としている為、必要であれば次の放課後等デイサービス事業所への情報提供はしている。また相談事業所には利用時の様子を伝えている。	今後も引き続き行い、継続した支援が行えるようにしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0	研修やケース会議の中で助言を受けている。	必要に応じて連携を強化していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5	事業所の活動としては行っていない。	タイミングを見て交流の時間を設けていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	1	参加している。	今後も積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	連絡帳や送迎時に保護者の方との情報交換を行うように努めている。	今後も情報交換を行い、共通理解を深めていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	3	保護者の方から相談があった際には連絡帳や送迎時、電話にてアドバイスを行っている。	事業所側からも積極的にアドバイスを行うようにする。また相談しやすい雰囲気づくりをしていく。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	契約時に説明している。	今後も継続して行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	その都度、行っている。	保護者の方に寄り添った助言をしていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	年に2回ほど保護者の方が参加できるイベントを行っている。	イベントに参加してくれた保護者の方が交流を図りやすい内容を設定していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	苦情があった際には速やかに対応をしている。	対応の体制をマニュアル化していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	活動の内容・写真を掲載したお便りを月に1回発行している。緊急連絡については公式LINEを使用している。	今後も保護者の方が分かりやすい情報発信を行っていく。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	個人名が記入されたものはシュレッダーにかけている。書面の保管は鍵付きのロッカーで行っている。	今後も引き続き行っていく。

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	必要であればローマ字、フリガナの書面を作成している。書面だけでは足りないご家庭には口頭での説明をしている。	今後も必要に応じた配慮をしていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4	避難訓練時に建物を借りることや様々な体験をする機会としての交流はある。	必要に応じて地域住民を招待するイベントを組んでいく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	事務所に貼りだし、職員には周知されている。	保護者の方への周知は曖昧なため、今後行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1	年に4回ほど様々な災害を想定して訓練を行っている。	今後も非常災害時に困らない様、訓練の行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	研修を受ける事やアンケートを行い、虐待の防止に努めている。	今後も引き続き行っていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	1	具体的な説明を保護者の方に行い、理解を得られるようにしている。	今後も引き続き行っていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	検査結果を基にアレルギー食物は避けている。	必要であれば、医師の指示書の提出を求めている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	ヒヤリハットの作成をし、ファイリングしている。	今後も続け、再発防止に努めていく。